

「心のワクチン」運動 「ワクチン差別」を考えよう

新型コロナのワクチン接種が始まり、数カ月がたちました。安心して日常生活を過ごすため、ワクチン接種を希望する人が多いと思いますが、持病などからワクチンを「打てない」、また様々な理由から「打ちたくない」と考えている人もいます。そのような人たちが、職場を解雇・異動させられたり、差別・誹謗中傷を受けるといった「ワクチン差別」「ワクチン・ハラスメント」が問題に。

あなたは、これをどう考えますか？

お互いの不安に寄り添う

コロナワクチンは、「接種を受けるよう努めなければならない(=努力義務)」と規定されていますが、これは強制ではありません。厚労省では接種を呼びかけているものの、最終的には本人が納得した上で決めるよう、また接種を受けない人を差別することがないように注意喚起をしています。

とはいえ、医療関係、介護施設、また、多くの人と関わる職種の人は、周りの人にも積極的にワクチンを接種してほしいのが本音でしょう。しかし、「持病などにより打ちたくても打てない」「副反応が怖い」「安全性・有効性が不安」など、打たない人の理由は様々。副反応のリスクが0(ゼロ)ではないだけに、「万が一何かあったら…」と不安を感じる人が多く、その気持ちは、誰もが理解できると思います。

一方、接種を強制したり、「接種をしないのは非常識だ」と、同調圧力をかける人も根底には不安があるのではないのでしょうか。感染症を過剰に恐れるあまり、大多数の意見に同調し、自分とは違う考えを受け入れる「心の余裕」を失っているのです。まずはお互いが、ワクチンを打つ・打たない理由に耳を傾け、不安に寄り添うこと。それが、差別やハラスメントを無くす第一歩なのではないのでしょうか。

自分で判断できる力を

また、若い世代では、情報収集の手段がネット中心になっていることから、「不妊になる」「遺伝情報が書き換えられる」など、不確かな情報に振り回されている人も多いようです。様々な情報が錯綜する中、正しいデータや知識を自ら集めること、それらを冷静に分析し、「自分で考え判断する力」が今、一人ひとりに必要です。

ワクチンや感染症についての正しい知識を身に付け、冷静な判断ができるようになれば、お互いを理解し、思いやりのある行動をとるための「心の余裕」ができます。親切運動が(一社)感染症対策コミュニケーションラボと始めた「心のワクチン」運動では、セミナーの開催などを通じ正しい情報の発信に努めていますので、こうした機会をぜひ、ご活用ください。

親切や思いやりの心を失わず、このコロナ禍を乗り越えていきましょう。

差別や偏見を考える 教育プログラムが完成

3月に開催したオンラインセミナーの収益金(ご寄附)を活用し、道徳や特別活動でご使用いただく小学生向けの教材、学習指導案が完成しました。親切運動Webサイト内「心のワクチン」運動ページにて、公開いたしますのでぜひご覧ください。今後、このプログラムを活用したモデル授業も実施予定です。